

第4号

10月現在会員数

かたつむり21

個人： 74名

法人： 2団体

2002年10月6日 発行

題字 杉野 雅子

かたつむり21の活動

事務局長 松木 彰造

○ SGへの後方支援

今夏のSGキャンプは、黒川さん、石谷さん、岩藤さん、林純子さんに一躍をになってもらった。参加された「かたつむり21」会員の反省意見が来年のキャンプに活かされることを願っています。

また、SG委員会には2・3名の会員が出席し、SGとかたつむり21の意思疎通を図り協力体制の確立に取り組んでいる。

○ 事務所の管理・運営

① 事務所が開設して早2ヶ月。この間キャンプのミーティングや物品の整理・準備、キャンプの思い出等、SGや「かたつむり21」の新たな活動拠点として力強いスタートを切りました。

また、パソコンによる名簿管理や文書作成等事務処理のスピード化と効率化を計っている。

② 9月18日、ようやく電話・FAXが開通した。現在、定期駐在は水曜(午後1時~3時)と土曜日のSG委会(午後5時~9時)。少々留守がちのため、ご用の方は留守電へのメッセージを。



また、事務所番のできる方を募っています。なお、インターネットは今月中旬に開通の見込みですが、改めてお知らせします。

③ 第2土曜日午前10時よりSG事務所周辺と近くの公園の清掃。お手伝いお願いします。

○ 会費納入のお願い

事務局の安定的な維持のため、「会員の拡大」と「会費(月1000円)納入の励行」をお願いします。

会費の納入には同封の振り込み用紙をご使用下さい。既に納入済みの方には同封しておりません。

○ 今後の予定

- ① 11月 2日(土) 新事務局お披露目(かたつむり21)
- ② 11月 4日(月) ジュニア芋掘り(SG)
- ③ 11月23日(土)~11月24日(日) Early Winter Camp(かたつむり21) (別紙参照)

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

事務所開設にあたり、次の方々から、現金や物品の寄付をいただきました。感謝！！

浅利さん、西庄さん、小西さん、池園さん、本多さん、種子嶋さん、林さん、杉野さん、黒川さん、宇田川さん、原口さん、西川さん、伊東さん

* 事務所をお借りしている婦人ホームでは古着を必要とされています。杉野雅子(0727-92-2488)さんまでご連絡ください。

SG後援会「かたつむり21」

531-0072 大阪市北区豊崎3丁目11番1号

大阪婦人ホーム 気付

会長：黒川芳朝 事務局長：松木彰造

電話：06-6375-3731 (事務所)

072-661-4625 (松木)

Eメール：akbkj500@tcn.zaq.ne.jp(松木)

サービスグループの活動・近況報告

中間 秀行

10月に入りめっきり秋らしくなり、過ごしやすくなった今日この頃ですがいかがでしょうか。

さて、今年のキャンプの報告と今後の予定について紹介します。8月16～18日の2泊3日で大阪市立びわ湖青少年の家にて行いました。

期間中はお天気にも恵まれ、湖水浴、クラフト(うちわ作り)、流しそうめん、夜店遊び、キャンプ・ファイヤー等のプログラムを行いました。

また、今回は岩藤キャンプ長を中心に、池園PC、吉田サブPC、清石PDと言ったフレッシュなメンバーがスタッフに加わり、委員会で煮詰めた、夜店遊びや昼食の流しそうめんも本格的でキャンパーに好評でした。2日目だけでしたけどプロパティメンバーから食堂班を作り、久々に食堂さんの食事もよかったと思います。

こんな感じで事故もなく無事に終えることができました。また、かたつむり21メンバーの方々も参加いただき有難うございました。

今年のキャンプの一番の課題でありましたキャンパーの確保ですが、堺養護学校の杉本校長先生やかたつむり21のメンバーにご協力いただいた各学校へのポスター掲示、案内状の配布を行いました。結果的に13名の申し込み、11名の参加にとどまり、さびしいキャンプになってしまいました。

今後、委員会でこの結果を分析し、来年に向けて、キャンプ実行委員会みたいなものを新しいメンバーで、できれば年内に組織しキャンプ場探しからできればいいなあと考えています。

次に今後の予定ですが、まず11月4日(祝)にジュニアの遠足を行います。内容は、みかん狩りです、場所は京都・城陽方面の山城多賀フルーツラインで行います。

12月中旬にはジュニアのクリスマス会の予定です。参加等のお問い合わせは委員会メンバーまでよろしくお願いします。(SG委員長)

会員だより①

サービスグループとの関わりと近況

岡村 安敏

ご無沙汰しております。私のSGとの関わりは、西川のおっちゃん、おばちゃんの息子さんの千治君と小学生からの同級生で、大学の時にキャンプに参加させてもらったのが始まりです。卒業後も2～3年は参加させてもらっていたのですが、その後はずっとご無沙汰をしていましたところ、「かたつむり21」発足に向けてのキャンプの案内をいただき、喜んで参加させてもらいました。懐かしい皆様方とお会いでき若かりしあのころに気持ちは戻ることができ大変喜んでます。(体はガタが来ていますが・・・)

現在京都の御室仁和寺のすぐそばの京都府立ろう学校の寄宿舍で、聴覚に障害をもつ中・高生を相手にガミガミ、時に遊ばれながら26年目を迎えています。仕事も家も仁和寺、竜安寺、金閣寺、嵐山映画村のすぐ近くで、本当に風光明媚なところです。子供も20歳になろうとしており、考えてみるとSGと関わっていた年なんだなと思うこのごろです。

仕事に就くことのきっかけとなった思い出の地“能勢”で皆様にお会いできると心身共にリフレッシュでき、初心に戻ることができます。今年も楽しみにしています。なにかお役に立てることがあればよいのですがなかなか参加できず申し訳ありません。(京都府立ろう学校指導員)

会員だより②

お久しぶりです。

岩藤(谷) 和代

2年前、すご〜く久しぶりに能勢のオータムキャンプに行き、なつかしい場所で、なつかしい人にたくさん会え、何ともいえない不思議な感覚でした。でも、自主的なボランティアの活動が続いているのには、驚きと共に歴史も感じました。

今現在の私の家族を紹介します。主人(岩藤)と大学3年の娘と高3の息子と柴犬1匹の4人と1匹の家族です。主人を筆頭にそれぞれ自分のしたいことをし、自分の思いを主張し(犬までもワンワンと)わがままに、楽しく、仲良く、マイペースに過ごしています。これだけ書けば、主人の行動も理解していただけるでしょう。

私は障害児施設に就職したかったのですが、普通の子ども達の保育所に就職し、現在に至っています。大阪市の保育所は、全ての障害児全面受け入れて、いろいろな子ども達と出会いました。キャンプで障害のある子もない子も、子どもに変わりないということが解っていたのは、とても大きかったです。ただやはり子どもより大人、心を閉じている母親に会うたびに能勢のルーテル教会での親子キャンプのお母さん達を思い出し、前向きに生きてほしいと願うしかありませんでした。

今の職場は地域との交流がとてもさかんなところで、いろいろな人に会い話を聞けます。その一つに地元の中学校を卒業後、地元の高校に進学させたいと強く願っている障害をもった子どもの親たちを支援している活動があり、組織の力の強さを感じたりしています。

また、地元の人、小、中、高の先生方たちと一緒に絵本「おたまさんのおかいさん」定価1800円を作っています。ムラのとしよりのたくましさ、あたたかさを子ども達に知らせたいという思いで作っている絵本で、しばらくは売り込み活動も入りそうです。皆様、是非買ってください。

これからの障害福祉

小西 加保留

厚生労働省によれば、2001年度在宅の身体障害者・児は333万人、内18歳未満の児童は約8万2千人に上るといふ。「障害」を持つ人々に対する施策は、国際的には1981年の「国際障害者」を契機に、「国連障害者の十年」、続いて「アジア太平洋障害者の十年」と展開し、今年はその最終年を迎えている。

また国内的にも「障害者プラン」の作成を始め、障害者基本法、交通バリアフリー法、欠格条項の見直しなど種々の法的制定や見直しがなされてきた。また来年度からは利用者意向の尊重を基底とした契約制度(支援費)および障害者ケアマネジメントのシステムが導入されんとしている。

このような多くの変動の波の中から、私達は常に

何が当事者にとって達成でき、何が達成されていないのか、しっかりと見据え続ける必要がある。

現実には、扶養義務に縛られた家族介護、所得保障や障害認定の問題、多様な生活形態を支える物的・人的サービスの不足、支援の専門性の問題など課題が山積している。今自治体には「当事者の地域生活を自分らしく豊かに支える」ことを担保するシステム作りで最大限の努力が求められている。

私達ボランティア団体も、「生活」を幅広い視野で捉え、今求められていること、できることを、当事者の声は勿論、他の関連団体や行政等の動向の中から敏感に抽出し、且つ欲張らず支援を継続していくことで、少しでも前進のための歯車になり続けていきたいものである。

(常任幹事・桃山学院大学 社会学部教授)

能勢 EARLY WINTER CAMPのお知らせ

林 隆夫

今年は「能勢EARLY WINTER CAMP」のお知らせです。11月23日（土）～24日（日）です。

初冬の能勢も趣があってすばらしいですよ。ストーブを囲んで熱い焼き芋を頬張る、考えただけでワクワク、ソクソク…。このキャンプも今年で3回目。前は乳飲み子から年齢不詳の方まで大勢参加してもらい、一泊二日のキャブを楽しみました。

このキャンプのお楽しみを2、3ご紹介しましょう。まず、ハイライトは「ナイトミーティング」。少しお酒が入りますが、本音のトークがバンバン飛び出します。喋り足りない人は夜明けまでたき火を囲んでフリートーキング、飲み足りない人は熱燗、焼酎お湯割り片手にフラフラヨタヨタ。

次の楽しみはみんなで囲む夕食です。前回のメニューはおでんに焼きそば。ナベの火を囲みながらテーブルマスターの歌唱指導、ゲームで一層盛り上がります。また、もちろん、夜のファイアーは言葉で言い尽くせないくらい、抱腹絶倒間違いなし。翌朝には何があったか思い出せない程(?)です。

別紙「能勢 EARLY WINTER CAMPのお知らせ」を良く読んで、すぐにご応募下さい。

スタッフ

キャンプ長：松木 彰造（天然・自然人）

食料調達係：西山(岡井) 進見（氷上郡の大地主）

PD：辻野 由美子（子育て奮闘中ママ）

ナイトミーティング進行係：原口 和博（宴会部長）

PC：岩藤 雅紀（ダイエット中のクマ）

スーパーバイザー：黒川芳朝（元カメラマン??）

BM(会計)：本多 勝久（やさしい会社の社長）

食堂さん：伊東 久実子（「クミちゃん」山歩き大好き）

杉野(片山) 雅子（書家・犬訓練士） 林 純子（肢体不自由児通園施設の看護師）



ちょっといわせてもらいまっせ

『自然を生かしたキャンプを』

黒川芳朝(かたつむり21会長)

何年かぶりに今年のSGサマーキャンプにフル参加した。びわ湖青年センターは、二階への昇降が階段のみのため、車いすの上げ下ろしは大変だが、それ以外はクーラーもあり極めて快適。何年も使っているのだから勝手知ったところだ。

委員長の報告にもあるように、キャンプそのものは大いに盛り上がった。しかし、せっかく大阪を離れてびわ湖まで来ているのだから、もっと“自然”を活用したプログラムに工夫がほしかった。砂浜があり、松林もある。夜耳を澄ませば波の音や虫の音も聞こえる。

だが、今回のキャンプでこれらに注目させることはなかった。綿菓子製造器などを持ち込むのもいいけど、

日常では味わうことのできないことを経験させることもキャンプの大きな目標の一つである。

子供たちの障害が重くなって、行動的なプログラムの展開が困難になっていることも確かだが、吉本のお笑いのような一過性のものでなく、いつまでも心に残る、そのような楽しい経験を付与できるよう頑張してほしい。

編集後記

今年もそれぞれの夏が過ぎていきました。そして 秋。夜空には中秋の名月…子供の頃おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にお月見をしながら楽しい夜をすごしませんでしたか？

今、私たちも心おだやかに夜空を見上げて未来を語り合いませんか？ 村瀬(寺川) つぐみ